CT(日本認知療法・ 認知行動療法学会) CT[指定演題] プログラム

海外招待講演1~2 教育講演1~15 大会企画シンポジウム1~12 自主企画シンポジウム1~3 ケーススタディ1~5 最優秀論文賞受賞講演

オンサイト

会場でセッションにご参加いただけます(会場名を 記載しています)

ライブ ライブ配

ライブ配信を行います(配信日時を記載しています)

オンタイム

録画のオンタイム配信を行います(配信日時を記載 しています)

オンデマンド

オンデマンド配信を行います: 配信期間は、2021年7月8日(木)~7月31日(土) ライブ配信したセッションは、準備が整い次第オン デマンド配信を開始します

CT海外招待講演1

オンサイト オンタイム オンデマンド

2021年7月9日(金) 8:50~9:50

第6会場「315」

C-ILE1 Overlapping and Distinctive Mechanisms of Action in Mindfulness Based Cognitive Therapy

マインドフルネス認知療法の作用機序-マインドフルネス瞑想と認知療法という異なる要素の重なりと違い

座長

佐渡 充洋

慶應義塾大学医学部精神 · 神経科学教室

演者

Zindel V. Segal

Distinguished Professor of Psychology in mood Disorders, Graduate Department of Psychological Clinical Science, University of Toronto - Scarborough

CT海外招待講演2

オンサイト

オンタイム

オンデマンド

2021年7月8日(木) 19:40~21:00

第4会場「311+312」

C-ILE2 Mindfulness-based Cognitive Therapy New Frontiers マインドフルネス認知療法-新たなフロンティアー

座 長

モデレーター

越川 房子

早稲田大学文学学術院

演 者

Willem Kuyken

Ritblat Professor of Mindfulness and Psychological at the University of Oxford, United Kingdom, and Director of the Oxford

Mindfulness Centre

藤澤大介佐渡玄洋

慶應義塾大学医学部医療安全管理部/精神 · 神経科

佐渡 充洋 慶應義塾大学医学部精神·神経科学教室

CT教育講演1

オンデマンド

C-EL1 うつ病のリカバリーを目指した認知行動療法

演者

菊地 俊暁

慶應義塾大学医学部精神 · 神経科学教室

CT教育講演2

オンデマンド

C-EL2 分野を超えて専門職が連携するための理論的・実践的課題について

公立長野大学

演 者 藤井博之

CT教育講演3

オンデマンド

C-EL3 COVID-19とこころの健康 - Mental Health Pandemicと認知行動療法

演者 大野裕 大野研究所

CT教育講演4

オンデマンド

C-EL4 慢性痛に対する認知行動療法と導入のポイント

演者 柴田 政彦 奈良学園大学保健医療学部

CT教育講演5

オンデマンド

C-EL5 成人期ADHDの時間処理障害に焦点づけた認知行動療法

CT教育講演6

オンデマンド

C-EL6 学校で実施するメンタルヘルス予防プログラム

演者 石川信一 同志社大学心理学部

CT教育講演7

オンデマンド

C-EL7 統合失調症/精神症に対する認知行動療法

演 者 松本 和紀 こころのクリニックOASIS

CT教育講演8

オンデマンド

C-EL8 学校のデジタル化でできること - ジュニアアスリートへのCBTを用いたメンタルサポートを通じて-

演者 関﨑 売 桐生第一高等学校/株式会社Welcome to talk/東邦大学精神神経医学講座

CT教育講演9

オンデマンド

C-EL9 精神疾患患者の喫煙と行動変容

演 者 大久保 売 国立精神・神経医療研究センター

CT教育講演10

オンデマンド

C-EL10 社会脳と心理療法

演 者 村井 俊哉 京都大学

CT教育講演11

オンデマンド

C-EL11 医療従事者の苦悩を癒すのは - マインドフルネスとコンパッションを中心に-

演者 朴 順禮 慶應義塾大学看護医療学部/慶應義塾大学病院緩和ケアセンター

CT教育講演12

オンデマンド

C-EL12 不眠の認知行動療法

演者 渡辺範雄 蘇生会総合病院

CT教育講演13

オンデマンド

C-EL13 認知症の人に合わせた「行動活性化」

演 者 佐渡 充洋 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室

CT教育講演14

オンデマンド

C-EL14 エビデンス治療からこぼれ落ちる摂食障害患者を救う、次の一手!: 対人方略をキーワードとして、治療の未来を描く

演 者 宗 未来 東京歯科大学市川総合病院精神科

CT教育講演15

オンデマンド

C-EL15 認知行動療法と文化性

演者 東斉彰 甲子園大学

オンサイト

ライブ

オンデマンド

うつ状態を呈する身体障害クライエントに対する認知行動療法アプローチ

2021年7月8日(木) 9:30~11:10

第3会場「303」

オーガナイザー 大嶋 伸雄

東京都立大学大学院人間健康科学研究科

【趣旨・狙い】

身体障害領域において一般的なリハビリテーションを遂行する上で、大きな障害となるのはクライエント (患者) の 意欲の低下やうつ症状などである。回復可能な疾病や怪我とは異なり、身体機能の障害は決して元に戻らないこと からクライエントの自己効力感を低下させ、前途を悲観する状態に陥らせることは珍しくない。さらに、内部障害 などの慢性疾患を呈するクライエントにはうつ症状あるいはうつ病が高頻度で見られるが、わが国の医療体制は極端な縦割り組織であり、そうしたクライエントに認知行動療法などの有効な対応が適切に行える環境にはなかった。 最近になって日本リハビリテーション・カウンセリング研究会が発足し、徐々にこうした弊害をなくす取り組みが 行われるようになってきた。主に回復期のリハビリテーション病院が中心となり、身体機能訓練とともに認知行動療法などの取り組みが少しずつ行われるようになったが、依然として課題は多い。

座 長 大嶋 伸雄 東京都立大学大学院人間健康科学研究科

高橋 章郎 専門学校首都医校作業療法学科

C-S1-1 脳卒中患者におけるPSD調査

川田 佳央 東京ちどり病院

C-S1-2 整形外科疾患・慢性疼痛患者に対する認知行動療法の経験から

許山 勝弘 福岡リハビリテーション病院

C-S1-3 身体機能障害とうつ症状: 臨床現場のマネジメント体験から

木田 康之 かわな病院

C-S1-4 高次脳機能障害者への心理アプローチの経験から

宮原 智子 地域活動支援センターWakaba

指定発言 芳賀 大輔 ワンモア豊中

オンサイト

オンデマンド

気分障害への多職種連携チームによる認知行動療法

2021年7月8日(木) 11:50~13:30

第3会場「303」

オーガナイザー 岡田 佳詠

国際医療福祉大学成田看護学部

【趣旨・狙い】

昨今、国内の気分障害患者が増加の一途を辿るなか、地域や医療機関で認知行動療法を多職種が連携しチームで実 施することが、患者の早期回復、退院・地域移行、再燃・再発予防、地域での安定した生活の維持と向上に不可欠 になっている。しかし、どのように多職種が連携してチームで認知行動療法を実施するのか、またどうしたら効果 が得られるのかは十分報告がなく、試行錯誤の段階である。

本シンポジウムでは、登壇者から、外来等で看護師と医師が共同で認知行動療法を実施しているケース、地域の訪 問看護ステーションで就労に向けてかかわったケース、公認心理師を中心に産業領域において多職種連携を図った ケースについて講演いただき、気分障害への多職種連携チームによる認知行動療法の課題と方向性について全体討 論したい。

岡田 佳詠 座 長 国際医療福祉大学成田看護学部

C-S2-1 外来における医師と看護師との共同による認知行動療法

川野 直久 滋賀里病院

C-S2-2 うつ症状により社会参加が難しい方への多職種で関わる認知行動療法

> 宮崎大学医学部看護学科/若草病院 田上博喜

C-S2-3 訪問看護における気分障害への認知行動療法的支援 ~就労に向けた関り~

> 武康 社会医療法人如月会訪問看護ステーション「そら」 泉

C-S2-4 産業分野における認知行動療法の実践と多職種連携

> 中村 聡美 ウーブン・プラネット・ホールディングス(株)

CT大会企画シンポジウム3 子供たちの心のサポート体制を考える

オンサイト ライブ オンデマンド

2021年7月8日(木) 14:30~16:10

第3会場「303」

オーガナイザー 平澤 千秋 専修大学附属高等学校

【趣旨・狙い】

複雑で将来の予測が困難な時代と言われる今、子どもたちの心のサポートには多様な視点、必要に応じた専門的な知見をもつ人材の連携が求められる。今年、日本認知療法・認知行動療法学会に学校教育部会を立ち上げた。学校教育を支援する多職種が集まり共に学びを深めながら、認知行動療法とその考え方を学校教育に広めていく活動を行う。現状、小中高の多くの教師は認知行動療法を知らない。しかし、認知行動療法とその考え方が学校現場に広がることによって、子どもたちの課題に対し、これまでにないアプローチの方法や効果を生み出すことができることがわかっている。このシンポジウムでは、様々な形で学校現場に関わる4名のシンポジストが、認知行動療法と子どもたちの接点に目を向け「困難の先にある未来」のサポート体制について検討を促す。子どもたちの現状に触れながら、その課題と期待される心のサポート体制の在り方について考える。

座 長 平澤 千秋 専修大学附属高等学校

小林 由季 慶應義塾大学医学部精神·神経科学教室

C-S3-1 外国につながる子どもの心のケア

青山 岳史 岐阜県可児市立蘇南中学校

C-S3-2 教育-医療連携の課題と展望:認知療法・認知行動療法の視点から考える

東海林 渉 東北学院大学教養学部人間科学科

C-S3-3 教育現場でサポート体制を整え、認知行動療法を取り入れる

吉川 季里 西南女学院短期大学付属シオン山幼稚園/吉川塾

C-S3-4 学校教育における認知療法・認知行動療法の役割

小関 俊祐 桜美林大学

オンサイト

ライブ

オンデマンド

新世代の認知療法 - well-beingへの取り組み-

2021年7月8日(木) 16:50~18:30

第3会場「303」

| オーガナイザー | 二宮 | 朗 | 慶應義塾大学医学部精神·神経科学教室 |

【趣旨・狙い】

疾病を治療し、障害をなくすという視点だけでなく、人生・生活の質を向上させ、維持するという社会の目指す方向性への変化の中でwell-beingが重要なテーマになってきている。

それに伴い心理学においても、心理的な弱さや障害の改善を目指すという従来の介入法だけではなく、人間のポジティブな面に焦点をあてる介入に関心が高まってきている。

また実際にwell-beingの向上が健康の増進につながるという研究結果が得られるようになっている中で、well-beingを向上させることのできる介入法はより重要性が増してくるものと考えられる。

そこで、本シンポジウムでは新世代の認知療法といわれる心理療法・精神療法の専門家を招き、以下の点について 議論を行うこととした。

- ・従来の障害の改善を目指す介入と何が異なってくるのか。また同じなのであれば、なぜポジティブな面にも作用するのか
- ・well-beingの向上を目指す上で、それぞれの介入方がもつ強みとは何か その上で、それぞれの介入法がもつ共通点についても探っていきたい。

ᄴ	長	岡木 泰具	広島大学大学院精袖袖経医科学

二字 朗 慶應義塾大学医学部精神·神経科学教室

C-S4-1 Well-Bingに対する行動活性化療法の効果と強み

高垣 耕企 広島大学保健管理センター

C-S4-2 well-beingとは -マインドフルネスの視点から-

二字 朗 慶應義塾大学医学部精神·神経科学教室

C-S4-3 アクセプタンス&コミットメント・セラピー(ACT)とwell-being

大月 友 早稲田大学人間科学学術院

C-S4-4 ウェルビーイング療法

竹林 由武 福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション学講座

指定発言 佐渡 充洋 慶應義塾大学医学部精神·神経科学教室

オンサイト

ライブ

オンデマンド

研鑽を続ける若手医療従事者による各地域における認知行動療法の実践と普及

2021年7月8日(木) 17:20~19:00

第4会場「311+312」

オーガナイザー 松岡

松岡 潤

東大宮メンタルクリニック/東京大学医学部附属病院精神神経科/慶應義塾大学 医学部精神・神経科学教室

【趣旨・狙い】

認知行動療法を適切に施行できるセラピストの育成が急務とされている。セラピスト育成の一環として2011年から行われている厚労省認知行動療法研修事業の参加者の属性は平均年齢40.1歳、平均精神科医療従事歴10.4年と、さらなる専門性の研鑚を目指している若手医療従事者が多かった。我々は過去の発表において、多職種の若手医療従事者が所属施設を超えた繋がりを作り、様々な方法で認知行動療法の研鑚を続けていることを報告してきた。本シンポジウムの演者の若手医療従事者は精神科医、看護師、心理師・心理士、作業療法士であり、認知行動療法を始めたばかりの者から中堅に差し掛かる者までを含む。我々の発表の目的は、各演者が日頃活躍する地域でどのような工夫をして学習の継続や認知行動療法の普及を続けているのかを共有することである。本シンポジウムの参加者の認知行動療法への関心や継続学習の動機づけが高まることを期待する。

座 長 松岡 潤 東大宮メンタルクリニック/東京大学医学部附属病院精神神経科/慶應義塾大学

医学部精神 · 神経科学教室

中川 敦夫 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室/慶應義塾大学病院臨床研究推進センター

C-S5-1 若手精神科医が認知行動療法をスタートするということ

日吉 史一 東京大学医学部附属病院精神神経科

C-S5-2 認知行動療法の学びを繋げる~看護学生への教示~

齋藤 嘉宏 西九州大学看護学部看護学科

C-S5-3 認知行動療法をどう学び、どう自分の臨床現場に役立てるのか

- 医療分野・教育分野で働く心理師の立場から-

荒木 睦美 ごきそカウンセリングオフィス

C-S5-4 地方で作業療法士が認知行動療法を実践するということ

岩崎 裕希 東北会病院

オンサイト オンデマンド

認知症の家族介護者に対する心理的ケア

2021年7月8日(木) 19:10~20:50

第3会場「303」

オーガナイザー 田島 美幸

慶應義塾大学医学部精神 · 神経科学教室

【趣旨・狙い】

認知症の介護では、記憶障害や実行機能の障害などの中核症状、徘徊や妄想などのBPSDのために、家族介護者は精 神的・身体的な負荷を負いやすい。本シンポジウムでは、認知症の家族介護者を対象とした先進的な取り組みにつ いて紹介し、家族介護者に必要とされる心理的ケアについて考察することを目的とする。まずは、認知症に関する 基本的な理解を深めた上で、アプリを用いて介護者に対して認知行動療法的なアプローチを行うWHOのiSupport プログラム、地域包括支援センターで展開する集団認知行動療法プログラムについて紹介していただく。そして、「認 知症と家族の会|を主宰する立場から、家族介護者が置かれた現状や必要とされる心理ケアについて提言をいただく。

田島 美幸 座 長 慶應義塾大学医学部精神 · 神経科学教室

> 西熊谷病院埼玉県認知症疾患医療センター/国立精神・神経医療研究センター 原 祐子

認知行動療法センター

C-S6-1 精神症状から見る認知症

> 横井 優磨 国立精神・神経医療研究センター病院

C-S6-2 認知行動療法の技法を用いた認知症介護者のためのオンライン自己学習

プログラムiSupport日本版

大町 佳永 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院

地域における認知症の家族介護者を対象とする集団認知行動療法/ C-S6-3

個別認知行動療法の実践

祐子 西熊谷病院埼玉県認知症疾患医療センター/国立精神・神経医療研究センター

認知行動療法センター

C-S6-4 認知症の人と家族が望むこころの支援ーともに考え、支え合うー

> 鎌田 松代 公益社団法人認知症の人と家族の会

オンサイト

ライブ

オンデマンド

身体症状症(慢性疼痛を含む)に対する認知行動療法と身体的治療の コンビネーション

2021年7月9日(金) 12:20~14:00

第4会場「311+312」

オーガナイザー 富永 敏行

京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学

【趣旨・狙い】

本シンポジウムのテーマは、身体症状症(慢性疼痛を含む)における認知行動療法と身体的治療のコンビネーション とした。

慢性疼痛を含む身体症状症は、身体的要因、心理・社会的要因が絡んでいる。患者は身体症状を主訴とするため、 認知行動療法の導入には工夫を要する。近年、慢性疼痛に対する認知行動療法は、全国の複数施設で実施されつつ あるが、今後はさらなるプログラムの標準化および普及が望まれる。

そこで、本シンポジウムは、タイトルを「慢性疼痛を含む身体症状症に対する認知行動療法と身体的治療とのコンビ ネーションについて」とし、各施設での取り組みの紹介の上、身体的治療と認知行動療法の位置づけについて、各演 者に提議いただく。

本学会の教育講演で講演される柴田政彦先生(奈良学園大学)による「慢性疼痛の認知行動療法の導入について」に連 結・発展させる形で、本シンポジウムを企画した。

座 長 柴田 政彦

奈良学園大学保健医療学部

富永 敏行 京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学

C-S7-1 慢性疼痛の身体的治療と心理療法に求めるもの

> 上野 博司 京都府立医科大学疼痛、緩和医療学教室

C-S7-2 身体症状症(慢性疼痛含む)の認知行動療法で求められるもの

> 富永 敏行 京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学

C-S7-3 慢性疼痛の認知行動療法の実践と効果予後

> 清水 栄司 千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学/千葉大学医学部附属病院認知行動療

> > 法センター/千葉大学子どものこころの発達教育研究センター

C-S7-4 慢性疼痛の特徴を踏まえた認知行動療法導入の工夫

> 岩佐 和典 大阪府立大学

オンサイト

ライブ

オンデマンド

薬剤師がうつ病患者のために医師と連携して実施する認知行動療法的 アプローチの成果と今後の展望

2021年7月9日(金) 13:40~15:20

第3会場 [303]

オーガナイザー

前田 初代

CBT-A服薬支援研究会/国立医薬品食品衛生研究所

【趣旨・狙い】

うつ病患者の服薬アドヒアランスは決して良好とは言い難い。これには疾病による認知の特徴、効果を感じる前に 副作用を自覚するという薬の持つ特徴、更に再発率が高く治療に長期を要するなどが影響している。そこで服薬ア ドヒアランスの向上には、患者がこれらの特徴を納得して受け入れ安心して服用できるよう患者の心に寄り添った 継続的な支援が有用と我々は考えている。本シンポジウムでは認知行動療法 (CBT) を学んでいる薬局薬剤師が主治 医と連携を取りながら服薬指導時や電話フォローアップ時に認知行動療法的アプローチ (CBT-A) を用いて、うつ病 患者の疾病及び服薬に関する悩み・不安に継続的に対応することで服薬アドヒアランスの向上を試みた研究の経過 報告と、精神科医と一般診療医それぞれの立場から取り組みにおける有用性や留意点、他の疾病への利用可能性な どについてお話いただき、今後の展望について参加者と検討してみたい。

座 長 前田 初代 CBT-A服薬支援研究会/国立医薬品食品衛生研究所

田沼 和紀 株式会社カメガヤ(フィットケアデポ)調剤学術企画/CBT-A服薬支援研究会

C-S8-1 薬局薬剤師が急性期のSSRI・SNRI服用患者を対象に治療継続を目的とした服薬支援の取り組み

渡邉 文之 日本大学薬学部地域医療薬学研究室

C-S8-2 うつ病患者支援における医薬連携の現状と、患者心理に配慮した服薬支援 の実現に向けた提言

庄司 雅紀, 大阪医科薬科大学薬学部社会薬学·薬局管理学研究室

C-S8-3 服薬支援に認知行動療法的アプローチを用いている薬剤師に精神科医から 伝えたい助言と期待

信田 広晶 しのだの森ホスピタル

C-S8-4 薬剤師の服薬支援における心理的配慮の重要性を臨床医として考える

長谷川 知子 いでんサポート・コンサルテーションオフィス

オンサイト

ライブ

オンデマンド

メンタルヘルス領域におけるソーシャルイノベーション

2021年7月9日(金) 14:50~16:30

第4会場「311+312」

オーガナイザー | 田澤 雄基

慶應義塾大学イノベーション推進本部/MIZENクリニック

【趣旨・狙い】

テクノロジーの進歩により、心の不調、病に対するソリューションが多様化してきている。しかし、人の心という 難しい領域で闇雲に新しい技術を活用するだけでは上手くいかないだろう。

人の心に寄り添う、生活を支えるということの本質を見直し、それに適したテクノロジーと融合することで、これ からの時代に適した新しいメンタルケアの在り方が生まれていく。また、このような新しいあり方を実現するため には、多様な考え方と人材がコラボレーションして進めていく重要性が高まっていく。

そこで今回は、既存の医療の枠を超えて新たな取り組みを進めている多様な先駆者をお呼びして、これからのメン タルケアの在り方と、それに適したソリューションの開発について議論を行う。

座 長

C-S9-1

佐渡 充洋

慶應義塾大学医学部精神 · 神経科学教室

久我 弘典

国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター

ユーザー目線のメンタルヘルスサービス開発/ユーザー目線の認知行動

療法のこれから

東藤 泰宏 株式会社かいじゅうカンパニー

デジタル療法が切り拓く新しい医療 C-S9-2

> 佐竹 晃太 日本赤十字社医療センター呼吸器内科/株式会社CureApp

C-S9-3 認知症未来共創ハブー認知症とともによりよく生きるいまと未来に向けて

> 堀田 聰子 慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科

C-S9-4 現役世代のメンタルヘルスと生活習慣病の横断的ケアを目指す都心型予防

クリニックの展開

田澤 雄基 慶應義塾大学イノベーション推進本部/医療法人社団弘寿会MIZENクリニック

オンサイト ライブ オンデマンド

困難の先にある未来のために 新型コロナ肺炎感染症に向き合う人々の心のケア を考える

2021年7月9日(金) 16:00~17:40

第3会場 [303]

オーガナイザー 大野 裕 一般社団法人認知行動療法研修開発センター

【趣旨・狙い】

本シンポジウムは、新型コロナ感染症 (COVID-19) 下で認知行動療法を活用した支援を行っている専門家による議論を深めるために企画した。COVID-19の感染拡大によるMental Health Pandemicでは、以下の3つの危機的状況が生れた。それはまず、感染症や経済的に破綻による生存の危機である。次に、社会的距離や在宅勤務等に起因する人間関係の危機である。そして、3つ目が。体校による学習機会の減少や虐待の増加によるは次世代の危機である。こうした危機的状況に対して認知行動療法は極めて有用な手段となりうる。そこで本シンポジウムでは、医療現場から片山奈理子氏に大学病院でのこころのケアチームの体験体験を、長徹二氏に精神科病院での活動とその成果をお話しいただくことにした。さらに、下山晴彦氏には産業場面、平澤千秋氏には学校、菊地俊暁氏には地域での取り組みを紹介いただき、さらに議論を通して認知行動療法の活用可能性について考えを深めていくことにする。

座 長 大野 裕 一般社団法人認知行動療法研修開発センター

中野 有美 南山大学

C-S10-1 困難の先にある未来のために 新型コロナに向き合う人々の心のケアを

考える ~大学病院における取り組み~ 片山 奈理子 慶應義塾大学病院精神・神経科学教室

C-S10-2 行動活性化全集中セルフケアツール、ハートランドごほうび大全集

長 徹二 一般財団法人信貴山病院ハートランドしぎさん

C-S10-3 職域での取り組み

C-S10-4 子どもたちのセルフヘルプを促す動画

平澤 千秋 専修大学附属高等学校

C-S10-5 デジタル精神医療は心のケアにどのように役立つのか

-地域での取り組みを中心に-

菊地 俊暁 慶應義塾大学医学部精神·神経科学教室

オンサイト ライ

ライブ オンデマンド

働き方改革の求める今後の産業メンタルヘルスとは? ポジティブサイコロジーの応用

2021年7月9日(金) 17:40~19:40

第4会場「311+312」

オーガナイザー 須賀 英道 龍谷大学短期大学部

【趣旨・狙い】

2019年度から働き方改革法案が施行され、就労者のストレス状況への関心が高まってきた。しかし、そこでは就労者のメンタル不調を医学的に病的な状態という問題解決視点に偏り、本来就労者に求められるべき健康志向性、すなわち一次予防の視点が軽視された傾向となっている。ストレスチェックが産業界に導入され、高ストレス者のフィルタリングによって治療対象としていく方向性はまさにその現れであろう。しかし、こうした対応策は、これまでの精神医療による個人の抱える原因究明、問題解決という従来の手法POS (problem orientated system) から出てきたものであり、精神療法の基本が病理学的視点にあるからに他ならない。しかし最近になって、健康教育においては、ウェルビーイングに着眼した心理手法を用いたポジティブサイコロジーの有効性が実証されてきている。 ポジティブサイコロジーの有効性については、アメリカで多くの実証研究がなされ、最近は精神医学に応用され、ポジティブ精神医学の分野が立ち上がっている。ここではレジリエンスや楽観主義、エンゲージメントといったポジティブ心理社会的要因のほかに、ウェルビーイングといった主観感情による効果についても指摘されている。こうしたポジティブ効果への発想転換は、就労者におけるメンタルヘルス不調者への活用にも期待され、うつ病の発症予防にも繋がることが予想される。

今回のシンポジウムでは、産業界においてポジティブサイコロジーの視点からウェルビーイング手法を実際に取り入れ、健康経営として重要視している分野からの報告を交えながら議論を深めたい。

座 長 須賀 英道 前

龍谷大学短期大学部

工藤 喬 大阪大学キャンパスライフ健康支援センター/大阪大学大学院医学系研究科精神 健康医学

- C-S11-1 産業界での働きがい意識につながるウェルビーイング手法の実践紹介 須賀 英道 龍谷大学短期大学部
- C-S11-2 ポジティブサイコロジーの産業分野での応用1 松隈 信一郎 一般社団法人ストレングス協会/慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室
- C-S11-3 ワーク・エンゲイジメントに注目した職場のポジティブメンタルヘルス 島津 明人 慶應義塾大学総合政策学部
- C-S11-4 サービス業におけるメンタルヘルスケアと健康経営 矢島 義拡 株式会社池の平ホテル&リゾーツ

オンサイト

オンデマンド

デジタル・オンライン認知行動療法の実践とその可能性:

COVID-19パンデミックをむかえて

2021年7月9日(金) 18:50~20:30

オーガナイザー 中川 敦夫

慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室/慶應義塾大学病院臨床研究推進センター

【趣旨・狙い】

認知行動療法が保険診療の対象となり、精神疾患の標準治療の一つとして位置付けられたにも関わらず、認知行動 療法へのアクセスが医療現場での問題の一つとなっている。Lancet Psychiatry Commission (2018) は、今後取り 組むべき研究課題として、認知行動療法への治療アクセス向上を目的とした普及研究や臨床実装研究の重要性を示 し、digital技術を活用した新たな認知行動療法プログラム開発への期待を示した。そのような中、2020年2月頃に 始まった新型コロナウィルス (COVID-19) pandemicは社会を大きく変え、臨床実践の形態も変わった。対面によ る面接は制限され、電話やwebによる非対面型の診察が行われるようになり、認知行動療法の実践にも大きなイン パクトを与えている。本シンポジウムでは、digital技術を活用した新たな認知行動療法について、最新の臨床や研 究からの知見を交えながら、その可能性について検討してみたい。

座 長 中川敦夫 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室/慶應義塾大学病院臨床研究推進センター

> 吉永 尚紀 宮崎大学医学部看護学科

C-S12-1 社交不安症のdigital認知行動療法

> 吉永 尚紀 宮崎大学医学部看護学科

C-S12-2 ガイド付きオンライン反芻焦点化認知行動療法

> 梅垣 佑介 奈良女子大学生活環境学部臨床心理学コース

C-S12-3 うつ病に対する遠隔認知行動療法:導入のための患者用資材および治療者

育成ツールの活用実践

野卜和香 慶應義塾大学医学部精神 · 神経科学教室

C-S12-4 情報通信技術を用いてうつ病の認知行動療法を臨床現場に実装する

> 加藤 典子 慶應義塾大学医学部精神,神経科学教室

CT自主企画シンポジウム1

オンサイト

ライブ

オンデマンド

オンライン心理支援のバリエーションと課題の解決

2021年7月9日(金) 9:00~10:40

第3会場「303」

オーガナイザー 中島 美鈴

九州大学人間環境学研究院

【趣旨・狙い】

コロナ禍で大きく普及したのが「遠隔心理支援」である。遠隔心理心理支援と一言にいっても、リアルタイムに支援者とリアルタイムにやりとりする支援から、Web上のプログラムを用いたセルフヘルプツールまで、さまざまである。臨床心理学の分野では対面の面接や集団療法を中心に臨床上のノウハウが蓄積されてきた歴史があるが、遠隔心理支援ならではの臨床上起こりうる問題やその解決法、配慮すべき点についてはこれから検討されるべき問題である。本シンポジウムでは、ゲーム障害、うつと不安、時間管理といった問題に対してどのように遠隔支援するのか、その際にどのような課題が生じどのように解決したのか、残された課題について検討したい。

座 長 中島 美鈴 九州大学人間環境学研究院

C-SS1-1 ゲーム障害ご家族向けプログラムにみるオンライン活用と 支援システムの構築

谷川 芳江 カウンセリングスペースやどりぎ

C-SS1-2 認知行動療法をベースにした、インターネット上のテキスト& 音声サービスについて

東藤 泰宏 株式会社かいじゅうカンパニー

C-SS1-3 時間管理を困りごととする人を対象にしたオンライン集団認知行動療法

中島 美鈴 九州大学人間環境学研究院/肥前精神医療センター

指定発言 竹林 中武 福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション学講座

CT自主企画シンポジウム2

オンサイト

ライブ

オンデマンド

統合失調症の認知行動療法(CBTp)の現在地から未来へ

2021年7月9日(金) 11:20~13:00

第3会場「303」

オーガナイザー 古村 健 国立線

国立病院機構東尾張病院

【趣旨・狙い】

統合失調症の認知行動療法 (CBTp) は幻覚や妄想のような陽性症状への治療効果が実証され、2000年代以降、諸外国の治療ガイドラインに掲載されるようになった。近年では、症状へのアプローチだけでなく、リカバリーを志向するアプローチや統合的なモデルも提唱されている。本シンポジウムでは、第一に、科学的分析として、CBTpの治療効果に関するメタ分析のシステマティックレビューを提示する。その中で、これまでのRCTやメタ分析の意義や限界に触れる。第二に、日本の実践家視点の分析として、日本に紹介されているCBTpのテキストを概観する。実践家へのアンケート結果を提示し、CBTpの実践現場では何が求められているのか検討する。第三に、最近の英国での研究や研修方法、普及啓発について実例に基づく情報提供を行う。本シンポジウムは、これら3つの方向から日本におけるCBTpの現在地をみつめ、今後の進むべき方向性を考える機会としたい。

座長

松本 和紀 こころのクリニックOASIS

菊池 安希子 国立精神・神経医療研究センター

C-SS2-1 メタ分析からみたCBTpの治療効果 ~CBTpはどこに向かうのか?~

関口 陽介 東日本成人矯正医療センター/東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科

C-SS2-2 CBTpの日本語版テキストの現在地 ~実践家は何を求めているか?~

古村 健 国立病院機構東尾張病院

C-SS2-3 海外の動向と研修システム

~英国のCBTp開発、治療者養成現場における実例~

桂 雅宏 東北大学病院精神科

指定発言 大野 裕 一般社団法人認知行動療法研修開発センター

CT自主企画シンポジウム3

オンデマンド

北欧のインターネット認知行動療法から考える日本の認知行動療法全国均てん化

オーガナイザー 濱谷 沙世

リンショーピング大学/千葉大学子どものこころの発達教育研究センター

【趣旨・狙い】

うつ病、不安症、強迫症、摂食障害などには認知行動療法の有効性が実証されており、近年ではインターネットを介して認知行動療法を提供した場合でも、優れた症状改善が効果あることが報告されている。またコロナ禍での認知行動療法は、遠隔での介入ニーズが高まることは自明である。本企画では、最も早くからインターネット認知行動療法を開発・研究してきたゲルハルト・アンダーソン教授をお招きし、日本のインターネット認知行動療法に関する知見も交えて、我が国で不足する認知行動療法家が効率的に心理社会的サポートを提供していく方法と、高齢化社会でメンタルヘルス管理が求められる領域について検討したい。

座長

清水 栄司 千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学

Gerhard Andersson Linköping University

C-SS3-1 Internet Cognitive Behavioral Therapy in Sweden スウェーデンにおけるインターネット認知行動療法

Gerhard Andersson Linköping University

C-SS3-2 強迫症と不安症のインターネット認知行動療法 -日本における臨床試験の結果を踏まえて-

> 松本 一記 金沢大学国際基幹教育院/金沢大学臨床認知科学研究室/ 千葉大学子どものこころの発達教育研究センター

C-SS3-3 北欧のインターネット認知行動療法から考える 日本の認知行動療法全国均てん化

溶谷 沙世 リンショーピング大学/千葉大学子どものこころの発達教育研究センター

CTケーススタディ1

オンサイト ライブ オンデマンド

2021年7月8日(木) 9:00~10:00

第4会場「311+312」

C-CS1 卵巣癌による機能喪失受容を促したことで、認知行動的な介入が 動機付けられ寛解に至った、うつ病の症例

スーパーバイザー 渡部 亜矢子 公益財団法人正光会広小路診療所 演 者 神山 咲樹 東京歯科大学市川総合病院

CTケーススタディ2

オンサイト ライブ オンデマンド

2021年7月8日(木) 10:40~11:40

第4会場「311+312」

C-CS2 薬物依存の青年期女性に対して入院中に看護師が認知行動療法を 実践した一例

座 長 岡田 佳詠 国際医療福祉大学

スーパーバイザー 白石 裕子 国際医療福祉大学大学院

演 者 板橋 朱麻留 総合病院国保旭中央病院

CTケーススタディ3

オンサイト

オンデマンド

2021年7月8日(木) 12:20~13:20

第4会場「311+312」

生殖医療治療中のうつ病に対する認知行動療法 C-CS3

座 長 有光 興記

関西学院大学

スーパーバイザー 富永 敏行

京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学

演 者 秋山 友美

日本医科大学精神神経科

CTケーススタディ4

オンサイト

ライブ

オンデマンド

2021年7月8日(木) 14:00~15:00

第4会場「311+312」

うつ病患者へのCOVID-19下での遠隔認知行動療法の実践:症例報告 C-CS4

長 座 スーパーバイザー 川崎 康弘 伊藤 正哉

金沢医科大学精神神経科学

国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター

演

佐々木 洋平

慶應義塾大学医学部精神 · 神経科学教室

CTケーススタディ5

オンサイト

ライブ

オンデマンド

2021年7月8日(木) 15:40~16:40

第4会場「311+312」

C-CS5 認知行動療法、対人関係療法、森田療法と3種類の精神療法を行い、 3年間の休職から復職した薬物治療抵抗性うつ病の40歳男性の1例

長 座

石垣 琢麿

東京大学大学院総合文化研究科

スーパーバイザー 中野 有美 南山大学人文学部心理人間学科

演 者

山市 大輔 慶應義塾大学医学部精神 · 神経科学教室

CT最優秀論文賞受賞講演

オンデマンド

長 座

藤澤 大介

慶應義塾大学医学部医療安全管理部/精神‧神経科

C-BA インターネット依存傾向者の行動変容の動機づけと援助要請に対する態度

演 者

小澤 英里子 株式会社アレックスマネジメント